

**平成17・18・19年度
市内遺跡緊急発掘調査報告書**

2009年3月

長野県飯田市教育委員会

**平成17・18・19年度
市内遺跡緊急発掘調査報告書**

2009年3月

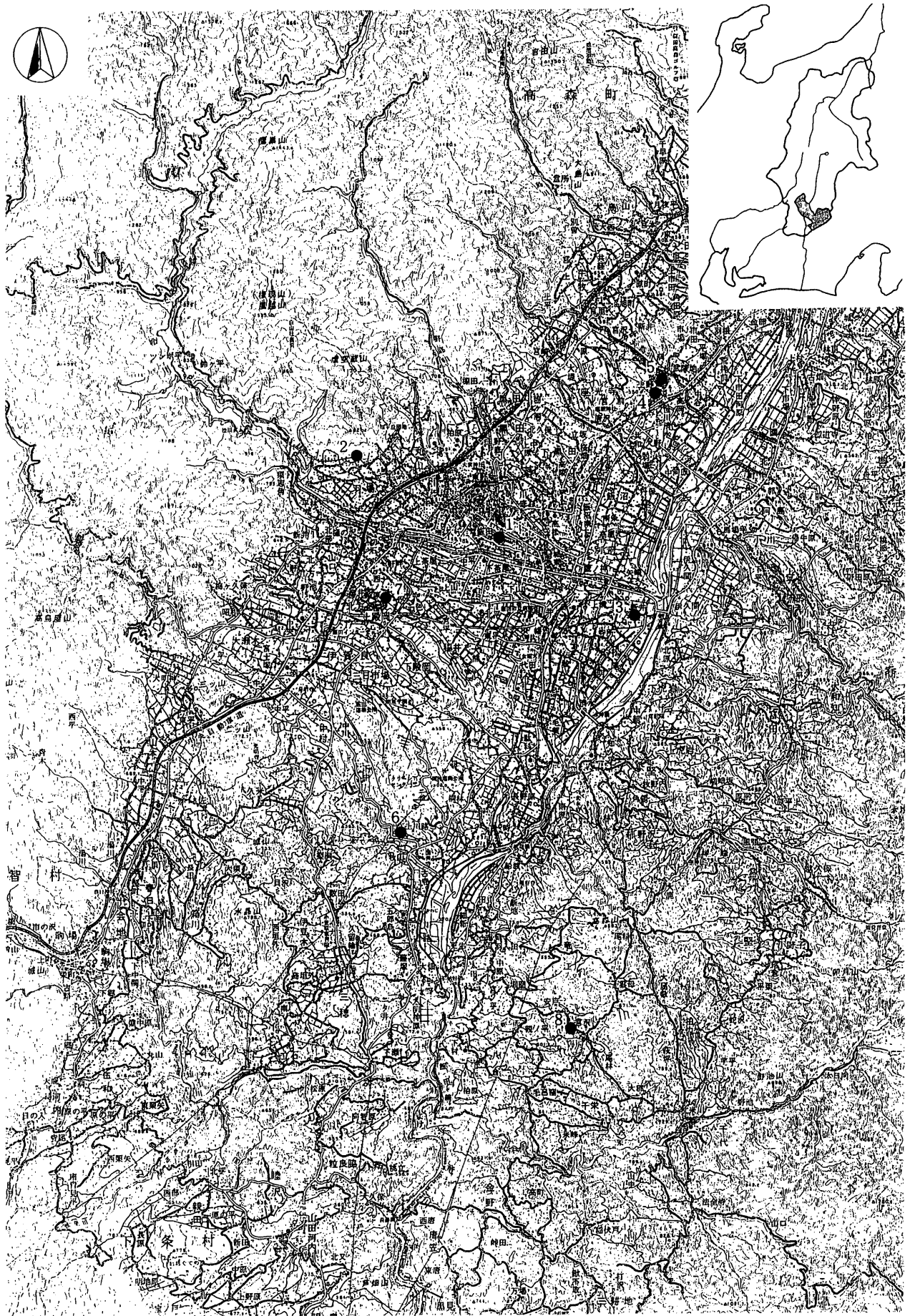
長野県飯田市教育委員会

例 言

1. 本書は長野県飯田市における宅地開発等に伴う平成 17・18・19 年度市内遺跡緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は平成 17・18・19 年度に国庫補助事業として飯田市（飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課文化財保護係）が実施した。なお、調査にあたっては地権者はじめ多くの方々の協力を得ている。
3. 調査は平成 17 年度に飯田城下町および飯田城跡遺跡・権現堂前遺跡の 2 遺跡を、平成 18 年度に川路大名神原遺跡・寺所遺跡・平地遺跡・畦地下遺跡の 4 遺跡を、平成 19 年度に西の塚遺跡・北方西の原遺跡・龍江宮沢遺跡・龍江山中遺跡の 4 遺跡を実施している。このうち、平成 18 年度実施の川路大名神原遺跡は、平成 19 年度に調査報告書を刊行しているため、今次報告書には掲載していない。
4. 本書に掲載した遺跡位置図は、飯田市都市計画基本図を 1/2 とし、1/5000 で使用している。
5. 調査組織
教育長 伊澤宏爾
生涯学習課長 小林正春（～平成 18 年度） 生涯学習・スポーツ課長 宇井延行（平成 19 年度～）
文化財保護係長 馬場保之（～平成 18 年度） 山下誠一（平成 19 年度～）
文化財保護係 宮澤貴子・渋谷恵美子・下平博行・坂井勇雄・羽生俊郎
作 業 員 伊東裕子 金井照子 木下義男 木下貞子 小島康夫 小林定雄 小平まなみ
関島真由美 高橋セキ子 竹本常子 中田 恵 中平けい子 仲村 信
中村地香子 福沢育子 福沢トシ子 松井明治 松本恭子 牧ノ内昭吉
松下省三 宮内真理子 森藤美知子 森山律子 吉川悦子
6. 本報告書の執筆・編集は、各発掘担当者と協議の上、下平が行った。
7. 本報告書の写真は各担当が行った。
8. 本報告書掲載の関係資料は、飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

目 次

例言 目次	
平成 17・18・19 年度調査遺跡位置図	
1 飯田城下町・飯田城跡（平成 17 年度調査）1	6 西の塚遺跡（平成 19 年度調査）…………… 15
2 権現堂前遺跡（平成 17 年度調査）…………… 3	7 北方西の原遺跡（平成 19 年度調査）……… 20
3 寺所遺跡（平成 18 年度調査）…………… 8	8 龍江宮沢・山中遺跡（平成 19 年度調査） 23
4 平地遺跡（平成 18 年度調査）…………… 10	報告書抄録
5 畦地下遺跡（平成 18 年度調査）…………… 13	



1. 飯田城下町遺跡・飯田城跡
2. 権現堂前遺跡
3. 寺所遺跡
4. 平地遺跡
5. 畦地下遺跡
6. 西の塚遺跡
7. 北方西の原遺跡
8. 龍江宮沢・山中遺跡

図1 平成17・18・19年度 調査遺跡位置図

いいだじょうかまち いいだじょうせき
1 飯田城下町・飯田城跡 (平成 17 年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市追手町 1 丁目 28 番地
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 207.90㎡
- 4 調査期間 平成 17 年 12 月 1 日
- 5 調査担当者 羽生俊郎
- 6 遺構 小柱穴 4 基
- 7 遺物 近現代陶磁器 8 点

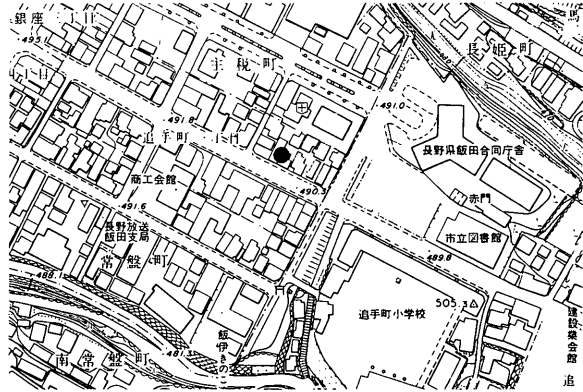


図 2 飯田城下町・飯田城跡調査位置図

2) 遺跡の立地

追手町地区は市街地の東側に位置し、南側を飯田松川、北側を谷川によって区切られた段丘ほぼ中央に位置する。計画地は飯田城跡の三の丸に位置している (図 2)。

3) 経過

平成 17 年 10 月 24 日付けで、下伊那郡豊丘村河野 1643 番地 河野木材株式会社 代表取締役社長池田克宏より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は飯田城下町遺跡・飯田城跡内での個人住宅建設であるが、計画地は飯田城跡の三の丸に位置し、現存する絵図等によれば武家屋敷および藩校が存在した場所であるため工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

12 月 1 日より重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(有)エムツークリエーションに委託実施した。同日中に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

計画地は飯田城の三の丸にあたり、武家屋敷等の遺構の存在が予想された。しかし、現地の土層観察では、上層から昭和 22 年の飯田大火の焼土層、造成土、旧表土、黒色土、二次堆積のローム層の順で堆積し、ローム層上面で小柱穴が確認されたのみである。小柱穴は 4 基確認され、長径 20cm × 短径 10cm 程度の長方形を呈する。遺構覆土の状況から中世と推定される (図 3)。

周辺の調査事例で確認されている近世遺構の検出面は不明であるが、造成土がこれに相当する可能性もある。遺物は、大火時の灰・焼土層から近現代の陶磁器片が僅かに出土した。常滑産の大甕片や瀬戸・美濃系と推定される陶磁器片が少量出土している。

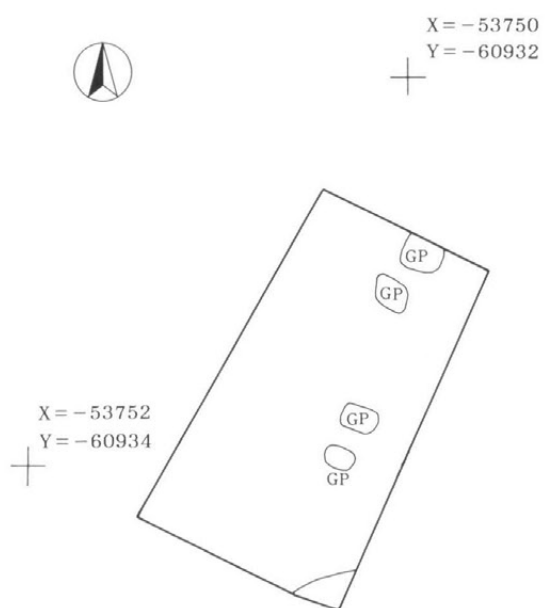


図3 飯田城下町・飯田城跡
全体図 (1:40)



トレンチ



出土遺物

2 権現堂前遺跡 (平成 17 年度調査)

ごんげんどうまえいせき

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市砂払町 3 丁目 914 番地 2
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 282㎡
- 4 調査期間 平成 17 年 4 月 27 日～5 月 2 日
- 5 調査担当者 下平博行・坂井勇雄
- 6 遺構 配石遺構 1
- 7 遺物 縄文時代後期土器・石器

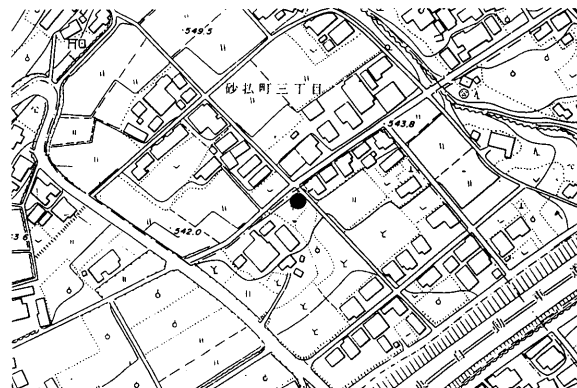


図 4 権現堂前遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡の所在する羽場地区は風越山からの扇状地の扇中央付近に立地する。遺跡の北側には円悟沢川、南には飯田松川が東流する (図 4)。

3) 経過

平成 17 年 4 月 20 日付けで、飯田市正永町一丁目 1239 番地 2 平沢 進より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は権現堂前遺跡での個人住宅建設であるが、計画地は西側隣接地の市道建設に先立つ調査で縄文時代後期～晩期の遺構・遺物が確認されており、また土地所有者によっても多量の土器・土製品・石器類が採集されていた。このため工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

4 月 27 日より重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(有)エムツークリエーションに委託実施した。同日中に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

建物および駐車場部分にかけて L 字のトレンチを設定した。耕作土 40cm 程度で遺物包含層の黒色土に達する。この黒色土層は層厚およそ 20cm 程度で、調査区内の駐車場部分にのみ残存し、宅地部分は過去の天地返し等の攪乱により削平されていた。黒色土層中には多量の遺物が包含されていたが、住居址等の掘り込みは確認できなかったが、駐車場部分で配石遺構を 1 基確認した (図 5)。

確認された配石遺構 (図 6) は、1 m × 0.5 m の範囲に人頭～拳大の礫が集中しているが、大半がトレンチ外に広がると推定されるため、詳細な規模や形状は不明である。

遺物は土器のみで、配石周辺の黒色土層中を中心に出土しているが、破片資料のみで復元された個体は無い。図 7-17～25 は羽状沈線文系土器で、後期中葉～後葉と考えられる。26～29 は沈線が施され、7～16 は磨消縄文が施されている。14 は浅鉢である。いずれも後期前葉～中葉と考えられる。また、36 は器面に条痕文が施されており、晩期後葉と考えられる。

権現堂前遺跡

権現堂前遺跡では、地主の山田留平氏（故人）による表採資料が多数保管されているが、いずれも今次調査と同様に縄文時代後期～晩期の遺物が主体となっており、飯田市中村・中平遺跡（飯田市教委1994）と同様な配石遺構を主体とする遺跡と考えられる。

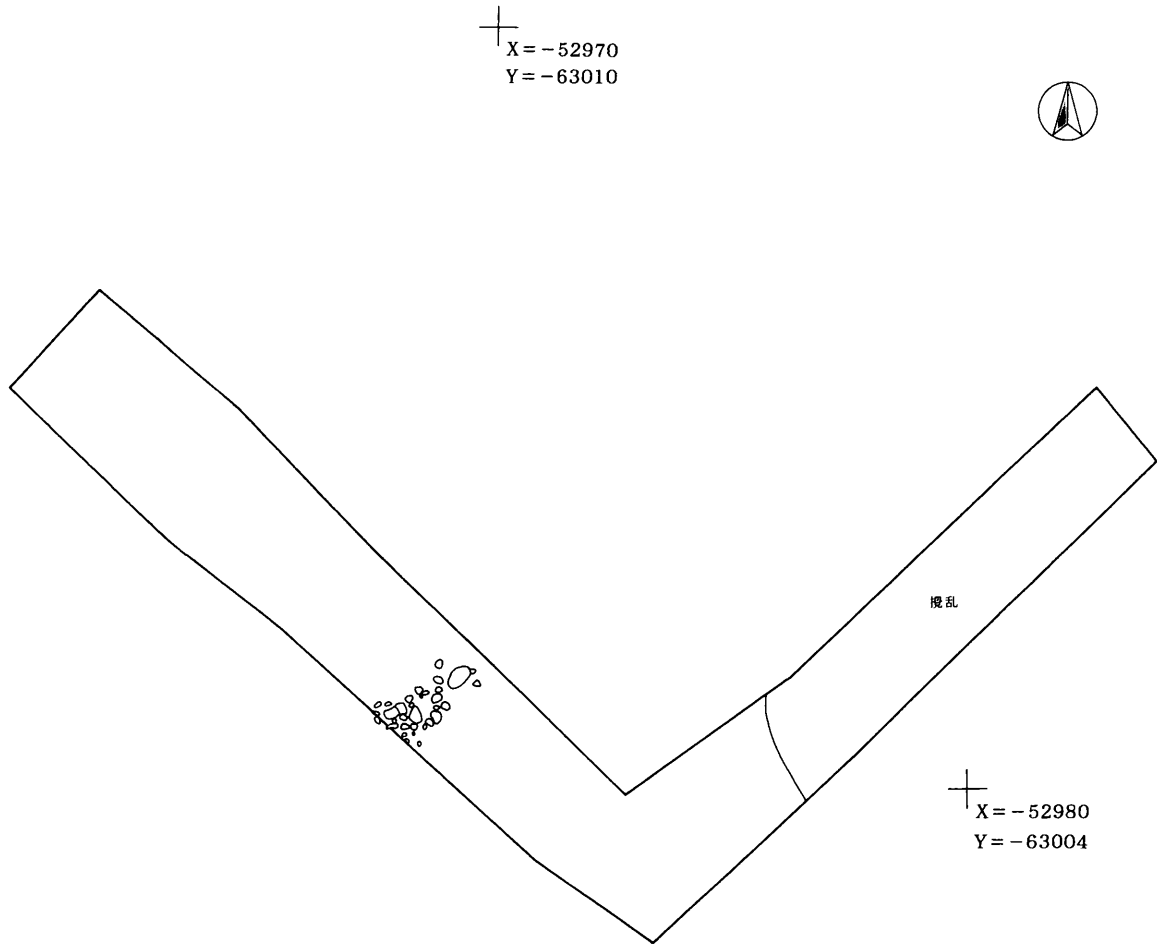


図5 権現堂前遺跡調査全体図（1：100）

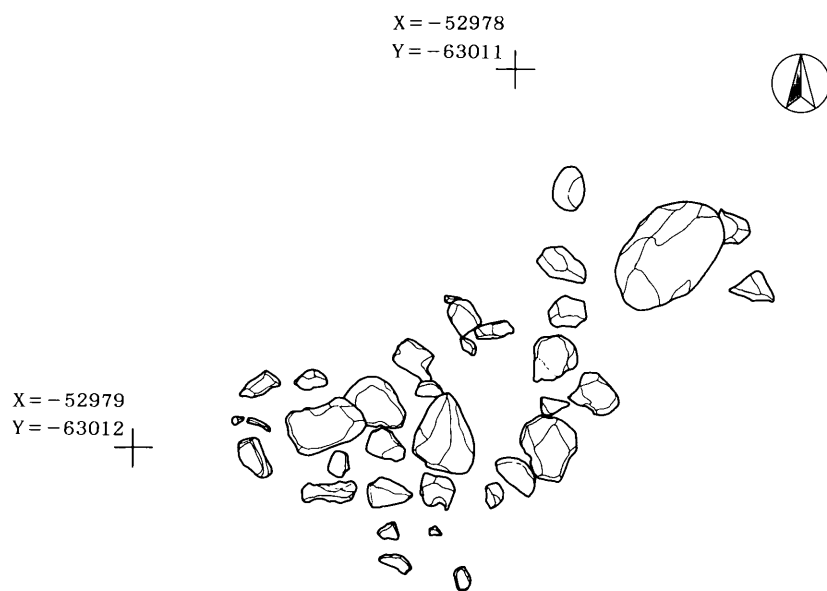


図6 権現堂前遺跡 配石平面図（1：40）

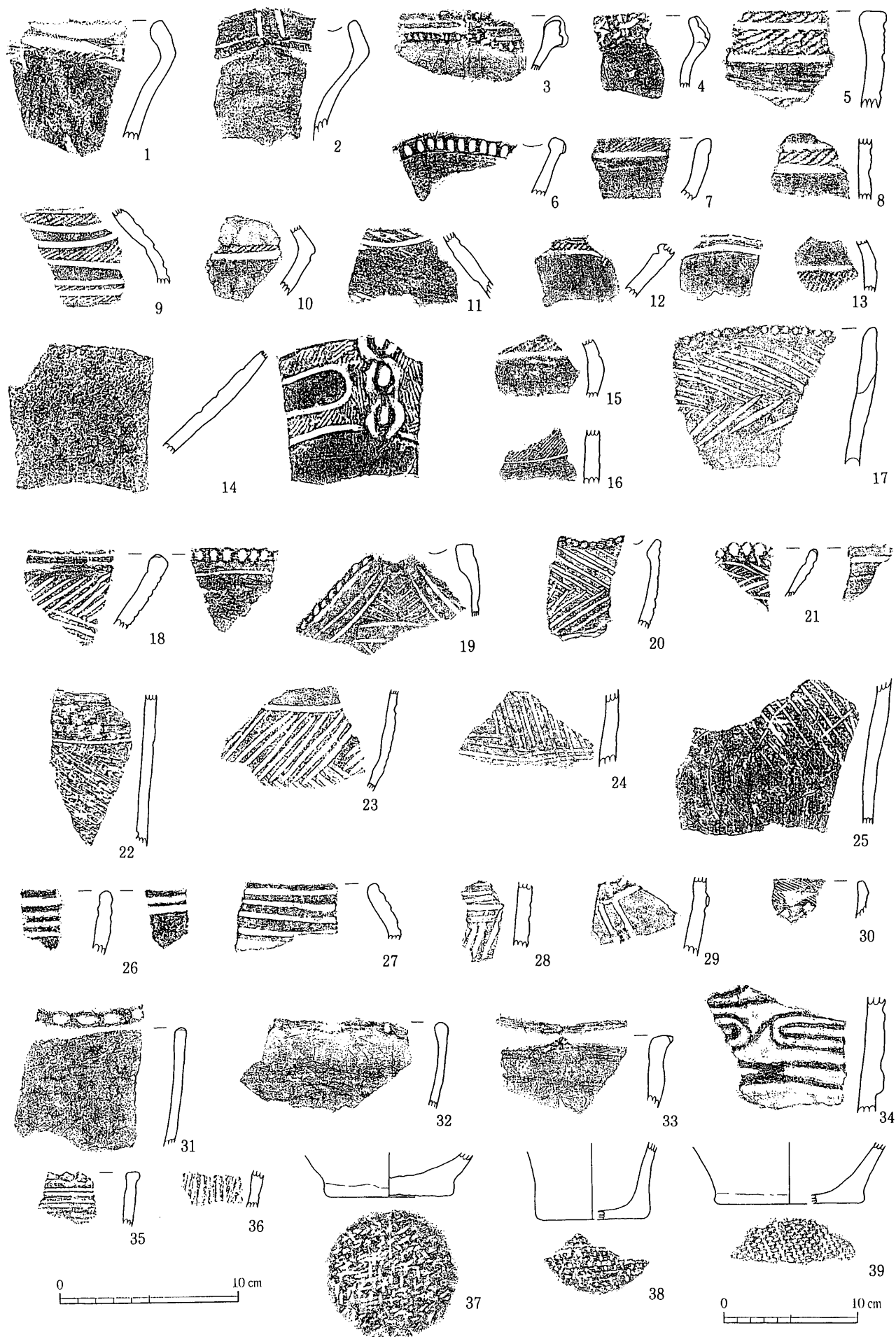
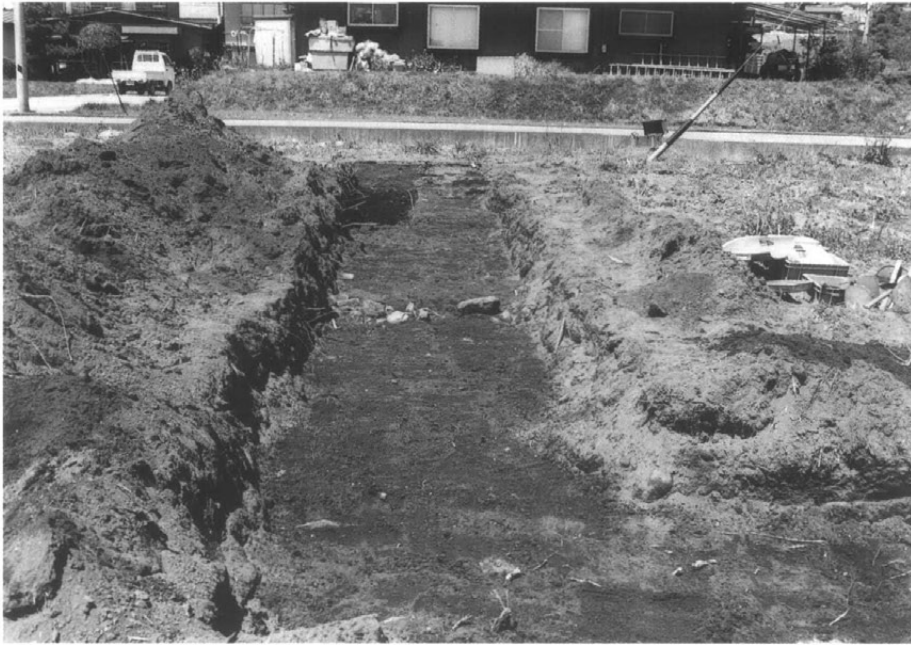


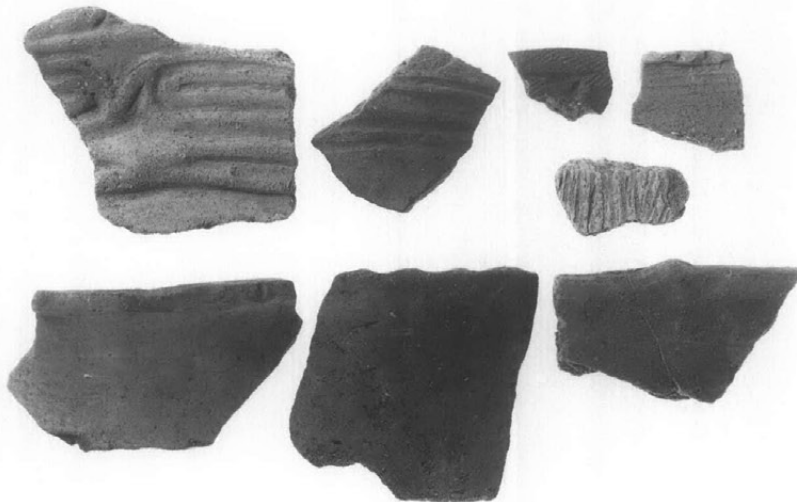
图7 出土遺物



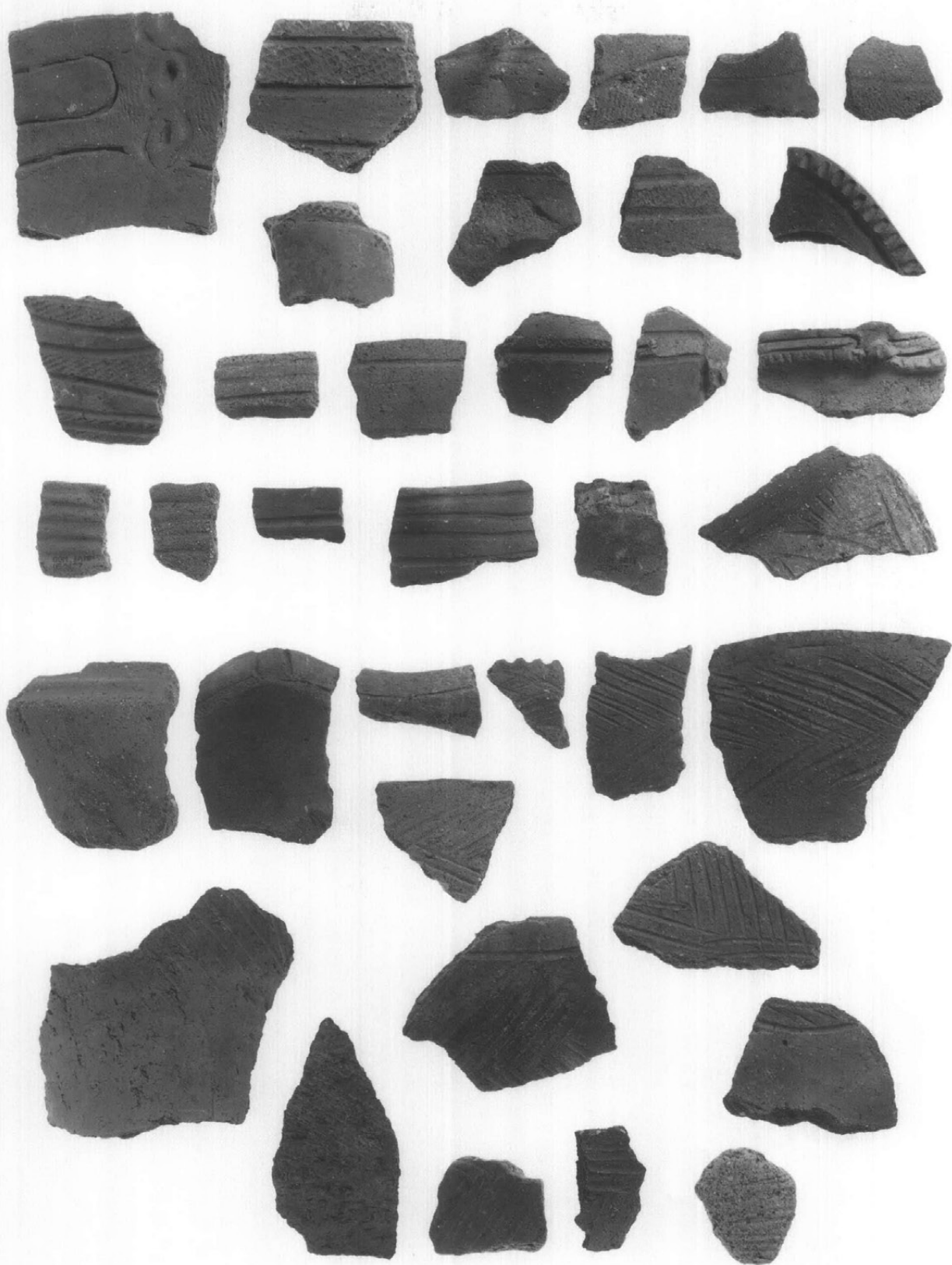
権現堂前遺跡トレンチ



配石遺溝



遺物 (1)



遺物（2）

てらどこいせき 3 寺所遺跡 (平成18年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市松尾新井 6130 番地 1 ほか
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 336.98㎡
- 4 調査期間 平成18年4月4日
- 5 調査担当者 坂井勇雄
- 6 遺構 なし
- 7 遺物 なし

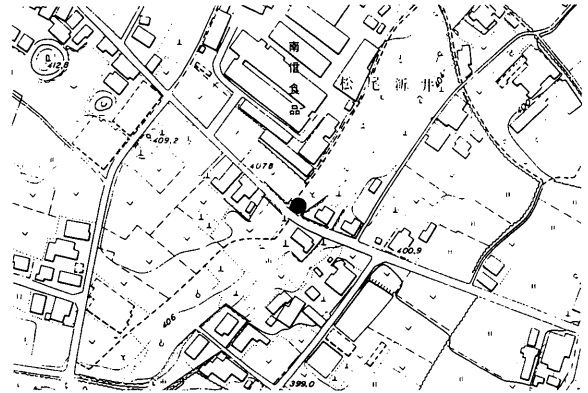


図8 寺所遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡は飯田市街地から南西5kmへ松尾地区の北東側に所在し、天竜川氾濫源に面する最も低い段丘上に立地する。天竜川との比高差はおよそ10m程度である。東側は天竜川が南流し、北側には飯田松川が東流する(図8)。

3) 経過

平成18年3月20日付けで、愛知県名古屋市北区落合町275番地 株式会社 野村工建 代表取締役 野村利之、飯田市松尾寺所5672-3 柄沢喜幸より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は寺所遺跡での個人住宅建設であるが、計画地は平成8年度に調査を実施し、墳丘墓等が確認された地点の西側に近接するため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

4月4日より重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(有)エムツークリエーションに委託実施した。同日中に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

建設予定地内に東西方向のトレンチを設定し調査を実施した。上から造成土20cm、暗褐色土55cm、黒褐色土35cmで遺構検出面の褐色土層に達する。上位段丘面の崖下にあたるため、湧水等の可能性が指摘されていたが、湧水は見られず、比較的安定した堆積が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。このため、遺跡は調査箇所から東側が中心になると考えられる(図9)。

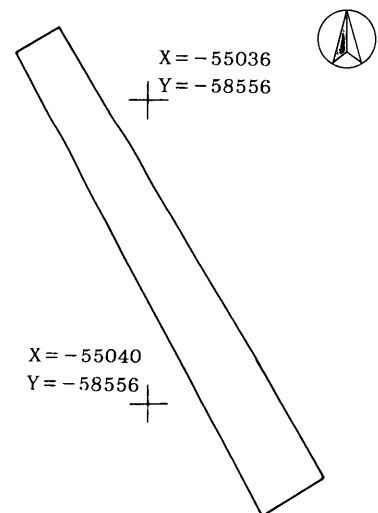


図9 寺所遺跡調査全体図 (1:100)



寺所遺跡トレンチ



作業風景

ひらじいせき 4 平地遺跡 (平成 18 年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市座光寺 3314 番地 10 ほか
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 346㎡
- 4 調査期間 平成 18 年 7 月 12 日
- 5 調査担当者 羽生俊郎
- 6 遺構 なし
- 7 遺物 なし

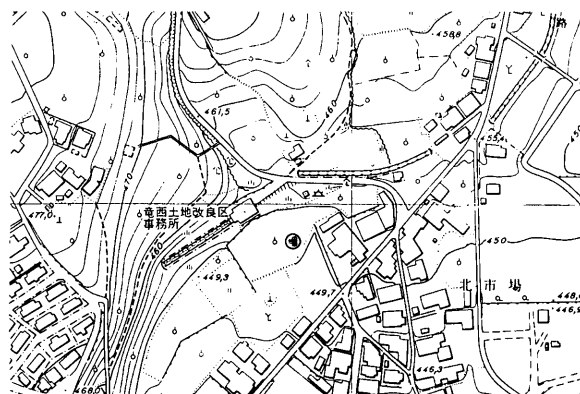


図 10 平地遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡は飯田市街地からおよそ北西へ 4km の座光寺地区に所在し、低位段丘上に立地する。北側に近接して南大島川が東流する。遺跡周辺は南大島川の扇状地に含まれ、上位段丘面の崖下にあたる (図 10)。

3) 経過

平成 18 年 6 月 28 日付けで、飯田市座光寺 3323-15 小島 晃より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は平地遺跡内での個人住宅建設であるが、計画地は『下伊那史』第 2 巻(下伊那史編纂会 1955)によると、周辺に十数基の古墳の所在が記載されている。その大半は、明治年間の工場建設時に破壊されたと記載があるものの、個々の所在地が不明であり、計画地に古墳が所在する可能性があるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

7 月 12 日に重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(有)エムツークリエーションに委託実施した。同日に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。また、建物基礎工事が行われた 8 月 31 日にも補足として立会調査を実施した。

4) 調査の所見

宅地部分及び進入路にトレンチを 3 本設定した (図 11)。いずれのトレンチでも地表下 130 ~ 180cm まで工場基礎による攪乱が確認され、その下層に南大島川に由来する黄褐色砂層が確認された。このため、明治年間に行われた工場建設時の造成が、遺跡の大半を占めていると判断された。遺構・遺物は確認されなかった。

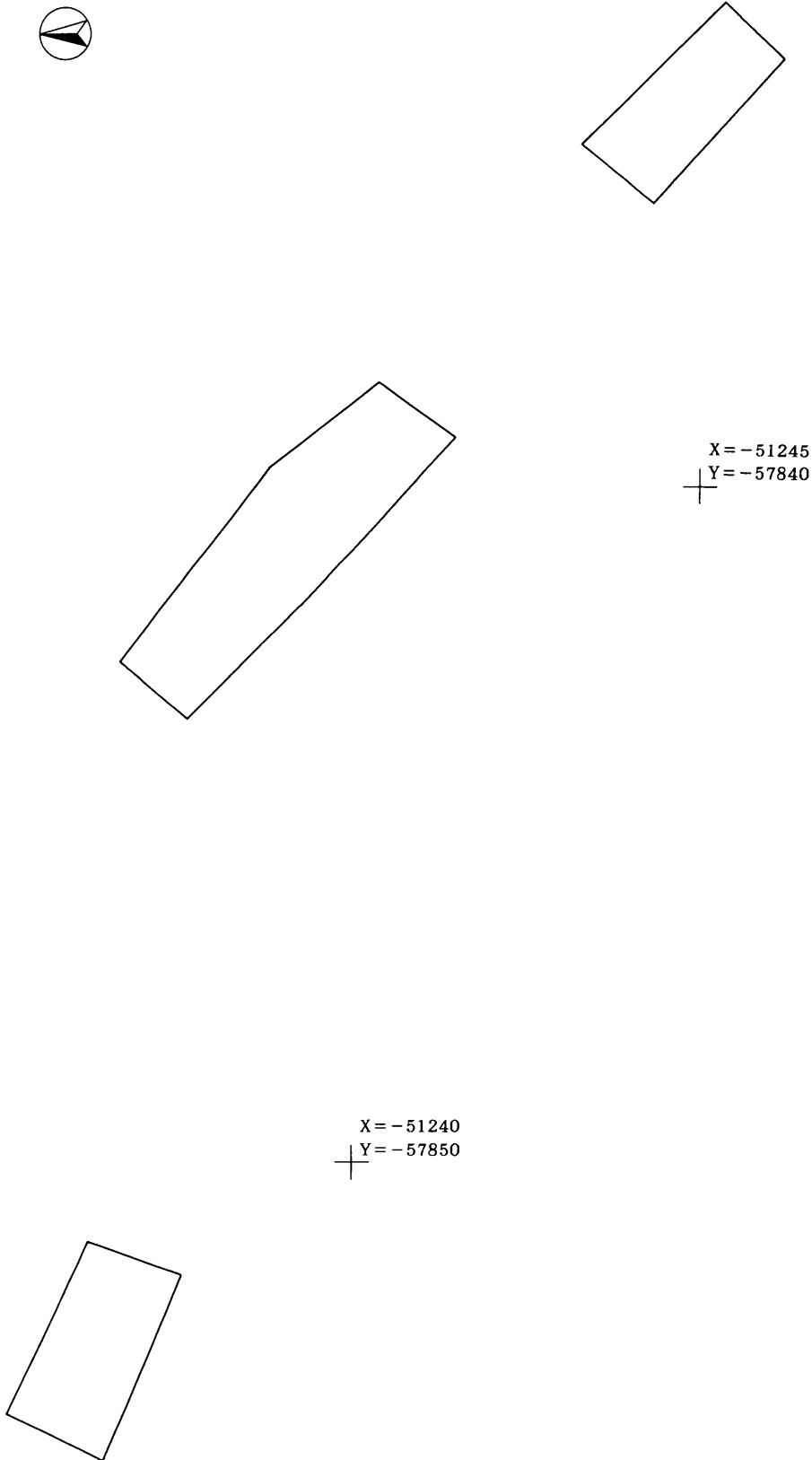


図11 平地遺跡 調査全体図 (1 : 100)



平地遺跡 重機による掘削



平地遺跡トレンチ（１）



平地遺跡トレンチ（２）

あぜちしたいせき 5 畦地下遺跡 (平成 18 年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市座光寺 3300-3
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 288.55㎡
- 4 調査期間 平成 18 年 8 月 22 日
- 5 調査担当者 羽生俊郎
- 6 遺構 なし
- 7 遺物 なし

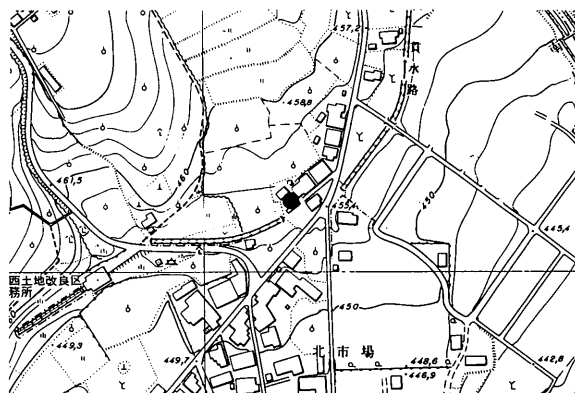


図 12 畦地下遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡は南大島川の扇状地上の緩やかな斜面上に立地し、北側には南大島川が東流する。計画地は遺跡の東端付近に位置する (図 12)。

3) 経過

平成 18 年 6 月 28 日付けで、飯田市座光寺 4674-1 アンシャンテおみ F 福田博之より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は畦地下遺跡での個人住宅建設であるが、計画地の畦地下遺跡は、遺跡内に畦地下古墳や銀製垂飾の出土した畦地 1 号古墳をはじめとする畦地古墳群が存在し、大部分は破壊されているものの、市道建設などに先立つ調査では未発見の古墳も確認されている。このため、同様な遺構が確認される可能性も考えられ、工事に先立ち試掘調査を実施し、結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

8 月 22 日に重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(有)エムツークレーションに委託実施した。同日に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

工事により地下への影響がある進入路・建物部分にトレンチを 2 箇所設定し、状況確認のためのトレンチを 1 本設定した (図 13)。進入路部分では、地表下 2m まで攪乱を受けており、その下層は礫交じりの黄褐色土が確認されたが、遺構・遺物は確認できなかった。建物部分では厚さ約 60cm の耕作土下層に、南大島川の洪水砂が約 10cm 程度確認され、その下層は旧表土と考えられる灰褐色土が堆積する。この下層に遺構検出面が存在すると予想されたが、建物基礎深度を超えるため、調査を終了している。

状況確認用のトレンチでは、耕作土下が巨石混じりの洪水砂が 70cm 以上堆積しており、遺構・遺物は確認されなかった。

遺跡は南大島川に近接するため、河川の氾濫を度々受けていると推定され、今次調査区もそうした個所であると判断される。

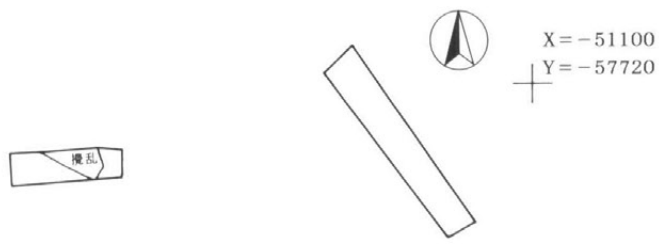


図13 畦地下遺跡調査
全体図 (1:100)

X=-51110
Y=-57730



畦地下遺跡トレンチ (1)



畦地下遺跡トレンチ (2)

にし つかいせき 6 西の塚遺跡 (平成19年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市上川路 417-1 ほか
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 459㎡
- 4 調査期間 平成19年4月24日～5月14日
- 5 調査担当者 渋谷恵美子
- 6 遺構 円墳1基(権現5号墳)
- 7 遺物 古墳時代土師器・須恵器・埴輪
時期不明石器

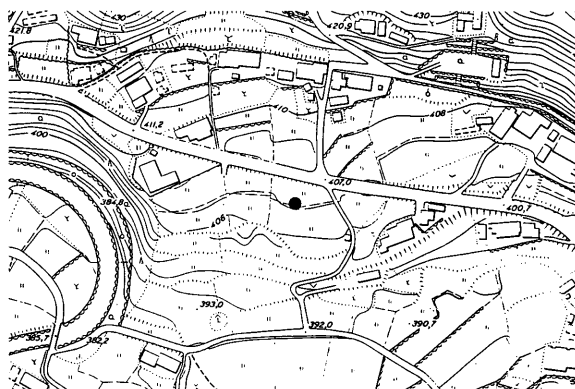


図14 西の塚遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡は飯田市街地からおよそ南7kmへ上川路地区の西北端に所在し、低位段丘Ⅱの一段上位の段丘面に立地する。南側には久米川が東流し、天竜川へ合流する。

3) 経過

平成19年4月18日付けで、飯田市北方2414-1 エスポワール清水Ⅲ 106号 金子 至より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は西の塚遺跡での個人住宅建設であるが、隣接地では工場建設時に発掘調査が実施されており、古墳時代前期の住居址が確認されているため、同様な遺構・遺物が存在すると考えられたため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

4月24日、試掘調査を実施したところ、古墳の周溝を確認したため、施主との協議を行い、住宅基礎等で遺構に影響が及ぶと判断される北側部分について本発掘調査を実施する事となった。同日より重機を用いて検出面までの掘削を行い、4月24日より作業員を入れて調査に着手した。調査地点の測量は(有)エムツークリエーションに委託実施した。精査の結果、古墳周溝を検出し、掘り下げを行い、遺構実測及び写真撮影等の記録作業を実施し、5月14日現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

調査により新規の古墳が1基確認された。周辺の古墳分布状況から権現5号古墳と命名している。規模・形状は直径20m前後の円墳と推定されるが、現地の旧状が段々に造成された水田のため、墳丘や埋葬施設は既に削平されており確認できなかった(図16)。

調査された個所での周溝は古墳全体の1/3程度と考えられる。規模は幅2.8～3.3m、深さ65cmで、断面はU字状を呈する。周溝底面に土坑等の施設は確認されなかった。周溝の覆土は4層に分層され、2層中から拳～人頭大の礫が多数確認されたが、人為的な配置は認められず、葺石の転落したものと判断した。遺物は2層中の礫と混在して出土した。

出土遺物（図15）には須恵器甗(2)・高杯(1)・壺(5)、土師器壺(3)・高杯脚部(4・6・7)、壺形埴輪と推定される埴輪小片(8)がある。須恵器高杯(1)は坏部と脚部に分かれていたものを図上復元したものである。坏部は直線的に立ち上がり、口縁部内面には一条の凹線がある。体部には二条の凸帯があり、凸帯間に波状文が施される。脚部は小片のため詳細は不明であるが、台形状の透かしが3箇所推定される。土師器高杯は、脚部が円錐形で低い特徴がある。埴輪はすべて小片であるが、8は有段口縁の壺形埴輪と推定される。これらの出土遺物から5世紀中葉の古墳の可能性が指摘される。

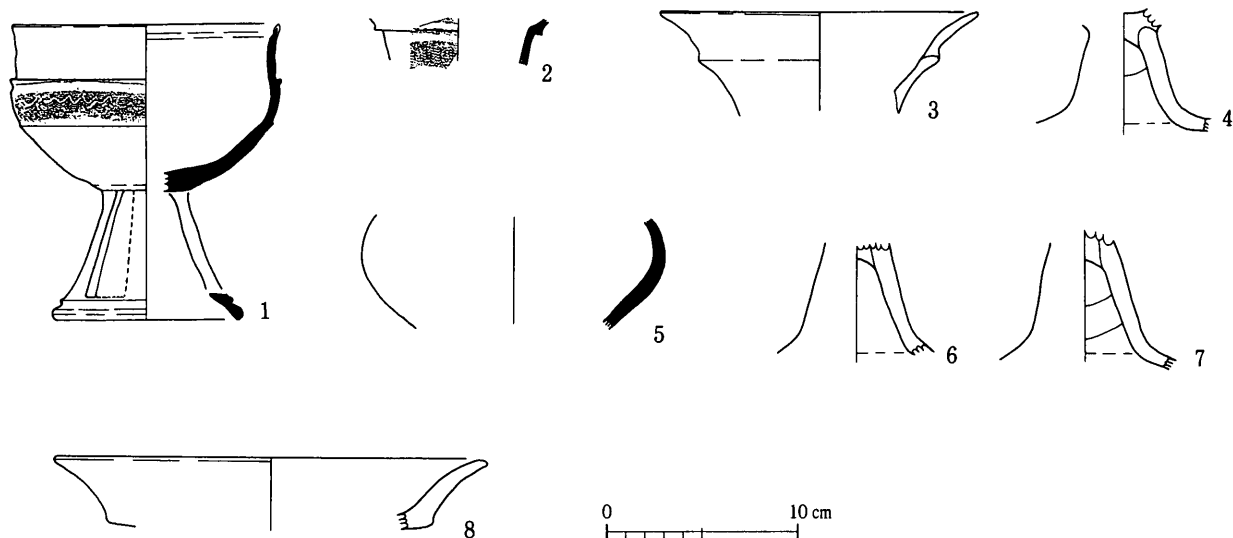
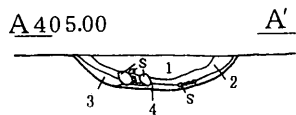
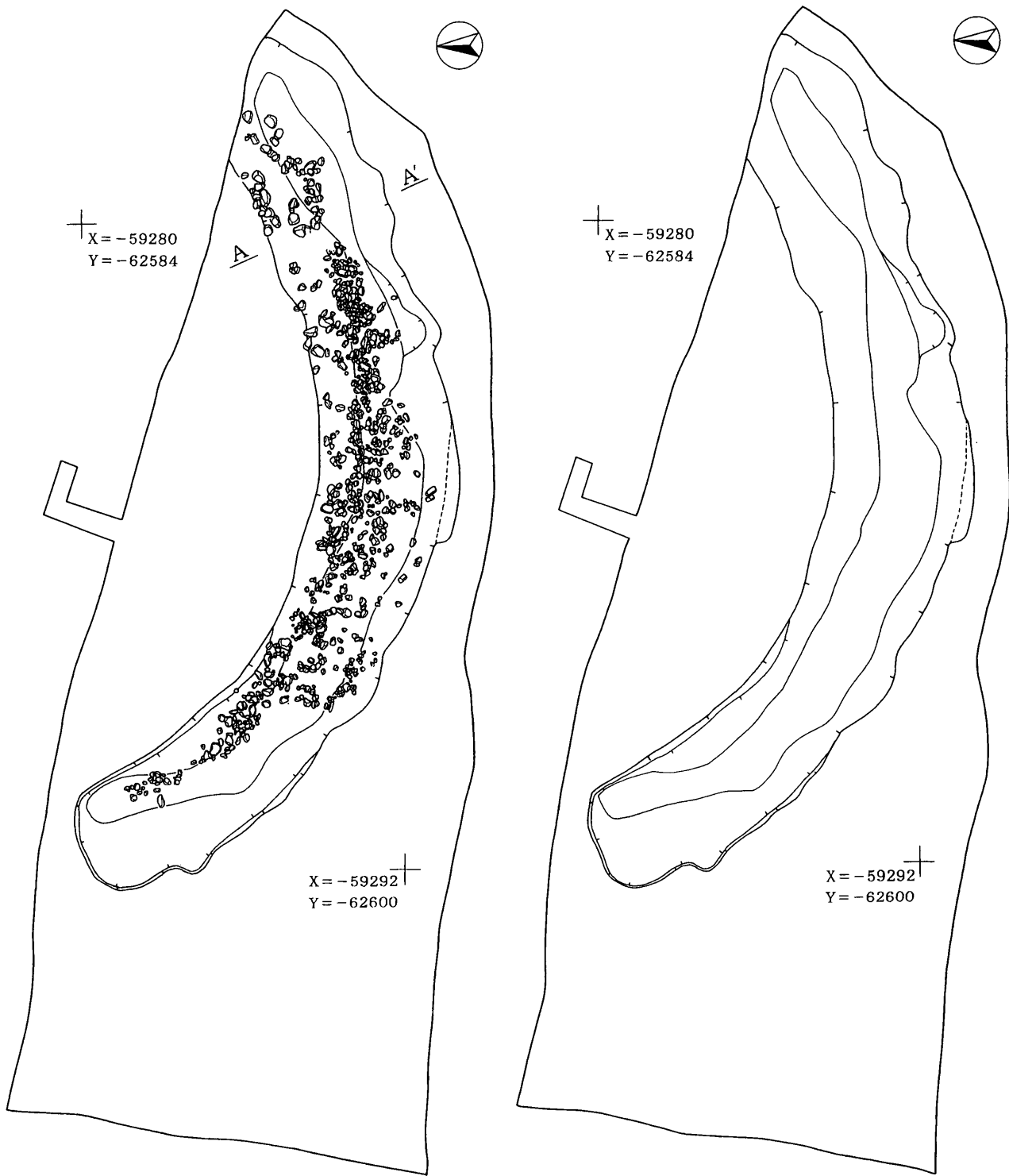


図15 権現5号古墳周溝 出土遺物

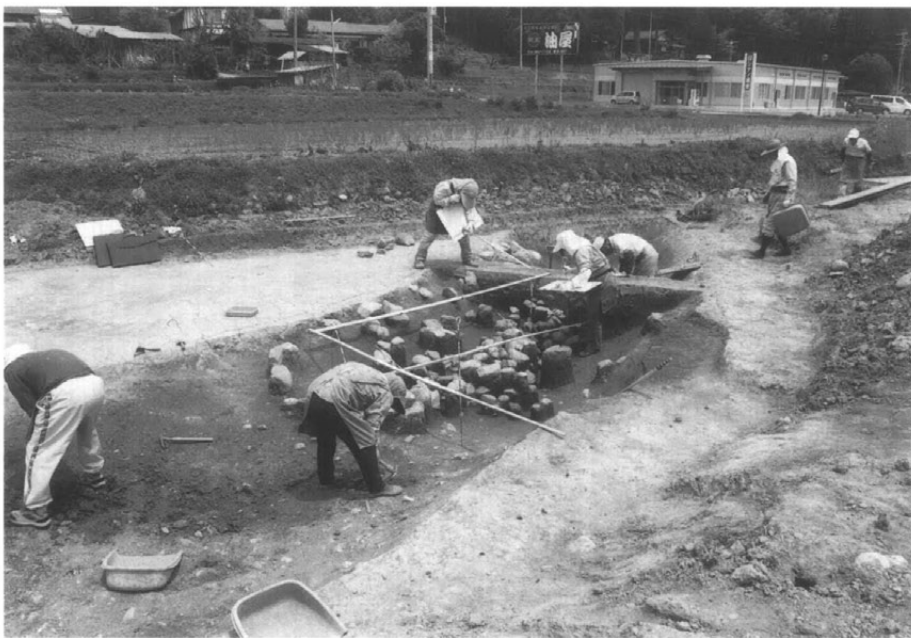


- | | | | | | | |
|---|----------|-------|-----|-------|------|---------------------------|
| 1 | 10YR 6/4 | にぶい黄橙 | sic | しまりあり | 粘性強い | 鉄分の沈殿物含む |
| 2 | 10YR 2/1 | 黒褐色土 | sic | しまりあり | 粘性強い | 鉄分の沈殿物含む (転落した葦石及び遺物を含む層) |
| 3 | 10YR 4/2 | 灰褐色土 | scl | しまりあり | 粘性あり | 鉄分の沈殿物含む |
| 4 | 10YR 4/1 | 褐灰色土 | sl | しまりあり | 粘性なし | |

図16 西の塚遺跡 調査全体図 (左・検出状況 右・完掘 1:150)



西の塚遺跡遠景



調査風景



出土遺物



権現 5 号古墳検出状況



権現 5 号古墳完掘

7 きたがたにし はらいせき 北方西の原遺跡 (平成19年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市北方9番地6ほか
- 2 調査の要因 個人住宅建設
- 3 開発面積 364.03㎡
- 4 調査期間 平成19年10月1日
- 5 調査担当者 山下誠一
- 6 遺構 なし
- 7 遺物 縄文時代前期土器

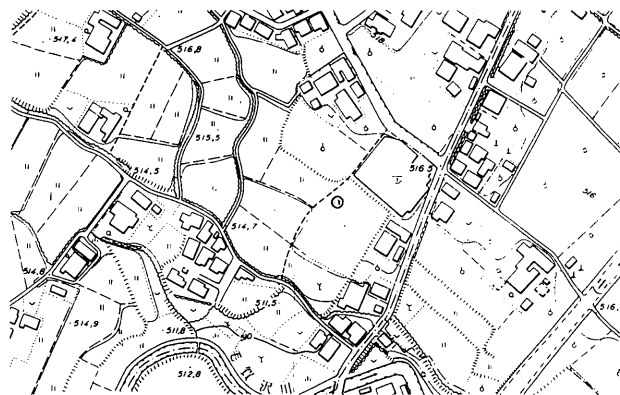


図17 北方西の原遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡は飯田市街地から南西へおよそ2kmの伊賀良地区に所在し、中位段丘上に立地する。遺跡周辺は飯田松川の扇状地に含まれ、南側に近接して毛賀沢川が東流する(図17)。

3) 経過

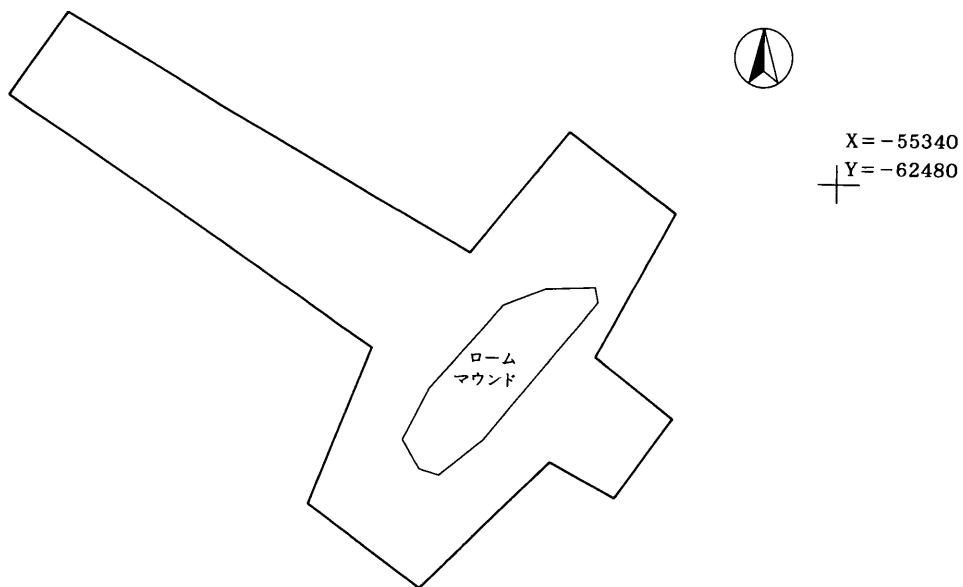
平成19年9月11日付けで、飯田市座光寺4580-1 メゾネット北A 大澤浩志より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発内容は北方西の原遺跡内での個人住宅建設であるが、計画地南東側に接する田井座遺跡や毛賀沢川対岸の殿原遺跡では、縄文から平安時代にかけての集落が確認されていることや、基礎掘削が地表下1.5mに及びことから工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

10月1日に重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は(有)プラス環境設計に委託実施した。同日に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

宅地部分にトレンチを十文字に設定した(図18)。水田耕作土40cm・暗灰褐色土8cm・黒褐色土14cm・暗褐色土22cm・褐色土10cmで遺構検出面のローム層が確認された。

検出面からは風倒木痕が1基確認されたのみで、その他の遺構は検出されていない。遺物(図19-1～5)は風倒木痕内部から出土したもので、縄文時代前期の諸磯c式と判断される。



X = -55350
Y = -62490

図18 北方西の原遺跡 調査全体図 (1 : 100)

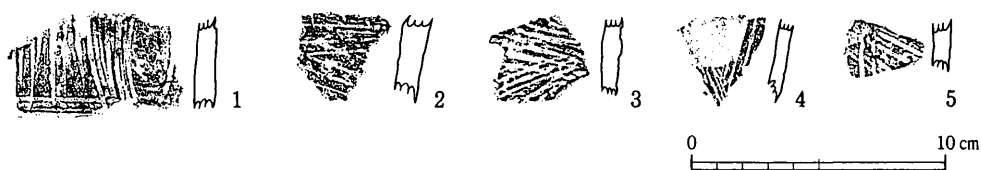


図19 出土遺物



北方西の原遺跡現況



北方西の原遺跡トレンチ（１）



北方西の原遺跡トレンチ（２）

たつえみやざわいせき やまなかいせき
8 龍江宮沢遺跡・山中遺跡 (平成19年度調査)

1) 調査の概要

- 1 調査地 飯田市龍江 8084 番地ほか
- 2 調査の要因 圃場整備
- 3 開発面積 17,668㎡
- 4 調査期間 平成19年11月1日～11月7日
- 5 調査担当者 山下誠一
- 6 遺構 なし
- 7 遺物 なし

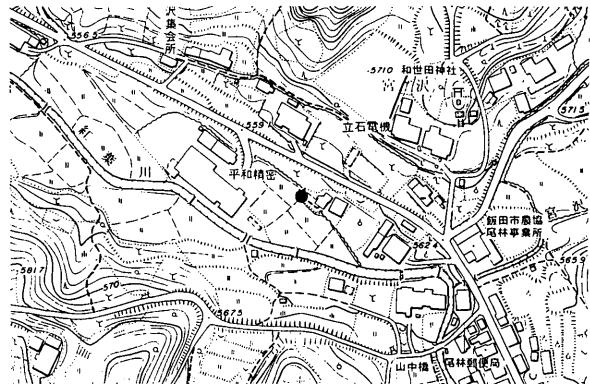


図20 龍江宮沢・山中遺跡調査位置図

2) 遺跡の立地

遺跡は飯田市街地から南東へおよそ10kmの龍江地区に所在し、天竜川に向かって西流する紅葉川によって山塊が侵食された小規模な谷地形に立地する。紅葉川の北側が龍江宮沢遺跡、南側が龍江山中遺跡である。遺跡周辺には同様な地形が随所に見られるが、こうした地形を利用した尾林焼の窯跡が遺跡西側に点在している(図20)。

3) 経過

平成19年8月20日付けで、飯田市追手町2-678 下伊那地方事務所長より、土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知が提出された。開発内容は龍江宮沢遺跡・龍江山中遺跡での圃場整備であり、計画面積は17,668㎡と大きく、遺跡も調査事例が無く詳細が不明なため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

11月1日より重機を用いて検出面までの掘削を行い、遺構・遺物の確認を行った。調査地点の測量は㈲キリュウに委託実施した。11月7日に埋め戻しを行い、現地での作業を終了した。

4) 調査の所見

龍江山中遺跡に3箇所、龍江宮沢遺跡に4箇所のトレンチを入れて遺構・遺物の確認を行った(図21)。いずれのトレンチでも砂及び湿地帯特有のグライ化土壌が見られ一部トレンチからは湧水も確認された。

遺構・遺物は確認されず、調査対象地は遺跡隣接地を流れる紅葉川の氾濫原と周辺の湿地帯と判断される。

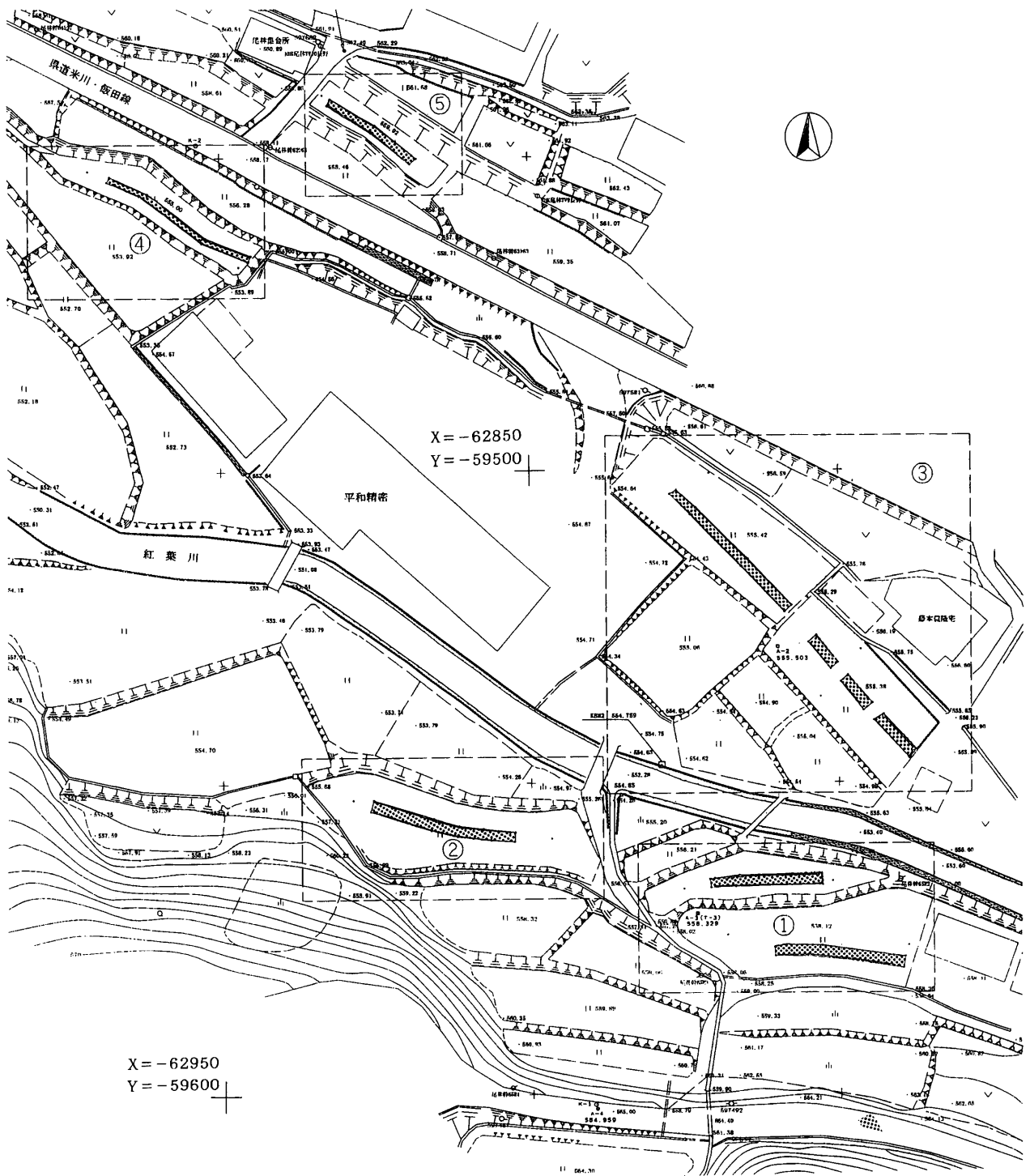


図21 龍江宮沢・山中遺跡 調査全体図 (1:1000)



龍江宮沢遺跡遠景



トレンチ (1)



トレンチ (2)



龍江山中遺跡遠景



トレンチ (1)



トレンチ (2)

報告書抄録

ふりがな					
書名	平成17・18・19年度市内遺跡緊急発掘調査報告書				
副書名					
巻次					
シリーズ名					
編著者名	下平博行				
編集機関	長野県飯田市教育委員会				
所在地	〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地 TEL 0265-22-4511				
発行年月日	西暦2009年3月				
ふりがな	ふりがな	コード	調査期間	開発面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村遺跡番号			
飯田城跡・飯田城下町遺跡	飯田市追手町	20205	平成17年12月1日	207.9㎡	個人住宅建設
権現堂前遺跡	飯田市砂払町		平成17年4月27日 ～5月2日	282㎡	個人住宅建設
寺所遺跡	飯田市松尾新井		平成18年4月4日	336.98㎡	個人住宅建設
平地遺跡	飯田市座光寺		平成18年7月12日	346㎡	個人住宅建設
畦地下遺跡	飯田市座光寺		平成18年8月22日	288.55㎡	個人住宅建設
西の塚遺跡	飯田市上川路		平成19年4月24日 ～5月14日	459㎡	個人住宅建設
(権現5号古墳)	飯田市北方		平成19年10月1日	364.03㎡	個人住宅建設
龍江宮沢・山中遺跡	飯田市龍江	平成19年11月1日 ～11月7日	17,668㎡	圃場整備	
所収遺跡名	種別	時代	検出遺構(時代)	出土遺物	
飯田城跡・飯田城下町遺跡	城跡・集落址	縄文～近代	柱穴4基(中世?)	近現代陶磁器	
権現堂前遺跡	集落址	縄文～弥生	配石1基	縄文土器	
寺所遺跡	集落址	弥生	なし	なし	
平地遺跡	散布地	古墳	なし	なし	
畦地下遺跡	散布地	古墳	なし	なし	
西の塚遺跡	集落址	古墳	古墳1基(権現5号古墳)	埴輪・須恵器・土師器	
龍江宮沢・山中遺跡	散布地	縄文	なし	なし	
要約	平成17～19年度の市内遺跡緊急発掘調査報告書である				

平成17・18・19年度
市内遺跡緊急発掘調査報告書

2009年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市大久保町2534番地
長野県飯田市教育委員会
印刷 飯田共同印刷株式会社
